

2017年9月19日

# 個人投資家向け 会社説明会



株式会社 **立花エレテック**

C.C.J2200 100th Anniversary in 2021

東証1部 証券コード **8159**

# 目次

- 会社概要 p.3
- 2018年3月期第1四半期 決算概要 p.11
- 人基軸経営 p.12
- 機構改革 p.16
- 中長期経営計画の取組みと進捗状況 p.18
- 2018年3月期 業績予想 p.25
- 株主還元の拡充 p.26
- ご参考 p.28
  - ・株価推移
  - ・連結業績の推移

# 会社概要

社名	株式会社 立花エレテック	証券コード	8159 (東証1部)
創業	1921(大正10)年9月1日	発行済株式数	26,025千株
代表者	代表取締役社長 渡邊武雄	株主数	2,948名
本社所在地	大阪市西区西本町 1-13-25	大株主	三菱電機 サンセイテクノス KBL EPB S.A. 107704 日本トラスティ・サービス信託 三菱東京UFJ銀行
資本金	58億74百万円		
従業員数	単体 793名 (連結 1,262名)		
連結売上高	1,602億18百万円 <17年3月期>		
事業内容	産業用電機・電子の商品、システムを販売する技術商社		
事業所	支社:東京、名古屋 支店:13 営業所:2 物流センター:1		

\* 国内、海外子会社は次ページ参照

[2017年3月末現在]

## 国内 6社

研電工業(株)

(株)立花宏和システムサービス

(株)テクネット

(株)大電社

(株)立花デバイスコンポーネント

(株)高木商会

## 海外 8社

立花オーバーシーズホールディングス社 (TOH)

タチバナセールス(シンガポール)社

タチバナセールス(香港)社

台湾立花股份有限公司

立花機電貿易(上海)有限公司

タチバナセールス(韓国)社

タチバナセールス(バンコク)社

タチバナセールス(インドネシア)社



# 沿革概要

1921年9月

電気関係製品の卸売業と電気工事業を目的として創業

1944年8月

近畿電気工事(株)(現きんでん)設立

1947年7月

三菱電機(株)と特約店契約を締結

1948年7月

(株)立花商会設立

1962年3月

三菱電機(株)と代理店契約を締結

1982年8月

シンガポール駐在員事務所開設(海外進出)

1986年5月

大阪証券取引所市場第二部特別指定銘柄(新二部)に上場

1990年9月

大阪証券取引所市場第二部銘柄に指定

2001年9月

(株)立花エレテックに商号変更～創業80周年

2004年3月

東京証券取引所市場第二部に上場

2005年3月

東京証券取引所・大阪証券取引所市場第一部に指定

2010年4月

(株)大電社(JQ)をTOBにより完全子会社化

2012年3月

海外統括会社立花オーバーシーズホールディングス社を設立

2012年6月

(株)高木商会と資本業務提携～持分法適用会社へ

2013年2月

(株)立花デバイスコンポーネント(ルネサスから無償で事業譲渡)

2014年12月

(株)高木商会を連結子会社化(81.18%)

## FAシステム事業

### ■FA機器

PLC、インバーター、ACサーボや配電制御機器さらに各種モーターの販売。



### ■FAシステムソリューション

生産設備を監視・計測・制御するシステムの構築やソリューションの提供。またロボットシステムの販売。



### ■産業メカトロニクス

放電加工機、レーザー加工機またマシンングセンターなどの各種工作機械の販売。



### ■産業デバイスコンポーネント

デジタル接続機器やコネクタ等の入出力機器 また FAパソコンやネットワーク機器の販売。



トータルソリューションで  
お客様の課題を解決



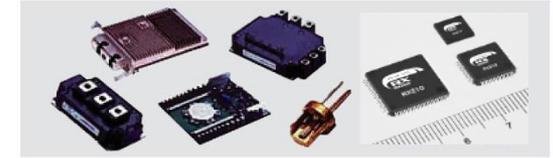
## 海外事業

主に中国やアセアンなどのアジアに半導体、FA機器、放電加工機・レーザー加工機などの産業メカトロニクス製品の販売。



## 半導体デバイス事業

規格品からユーザー仕様までニーズに合わせた半導体や電子デバイス製品の販売。さらにマイコン・ASICやカスタムLSIの設計開発。



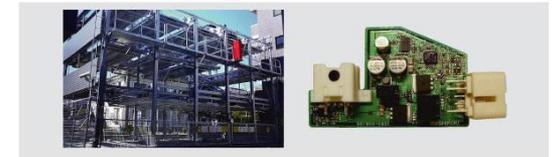
## 施設事業

工場やオフィスビル・店舗における照明、空調、エレベーターや防災設備機器。また省エネに優れたオール電化製品の販売。



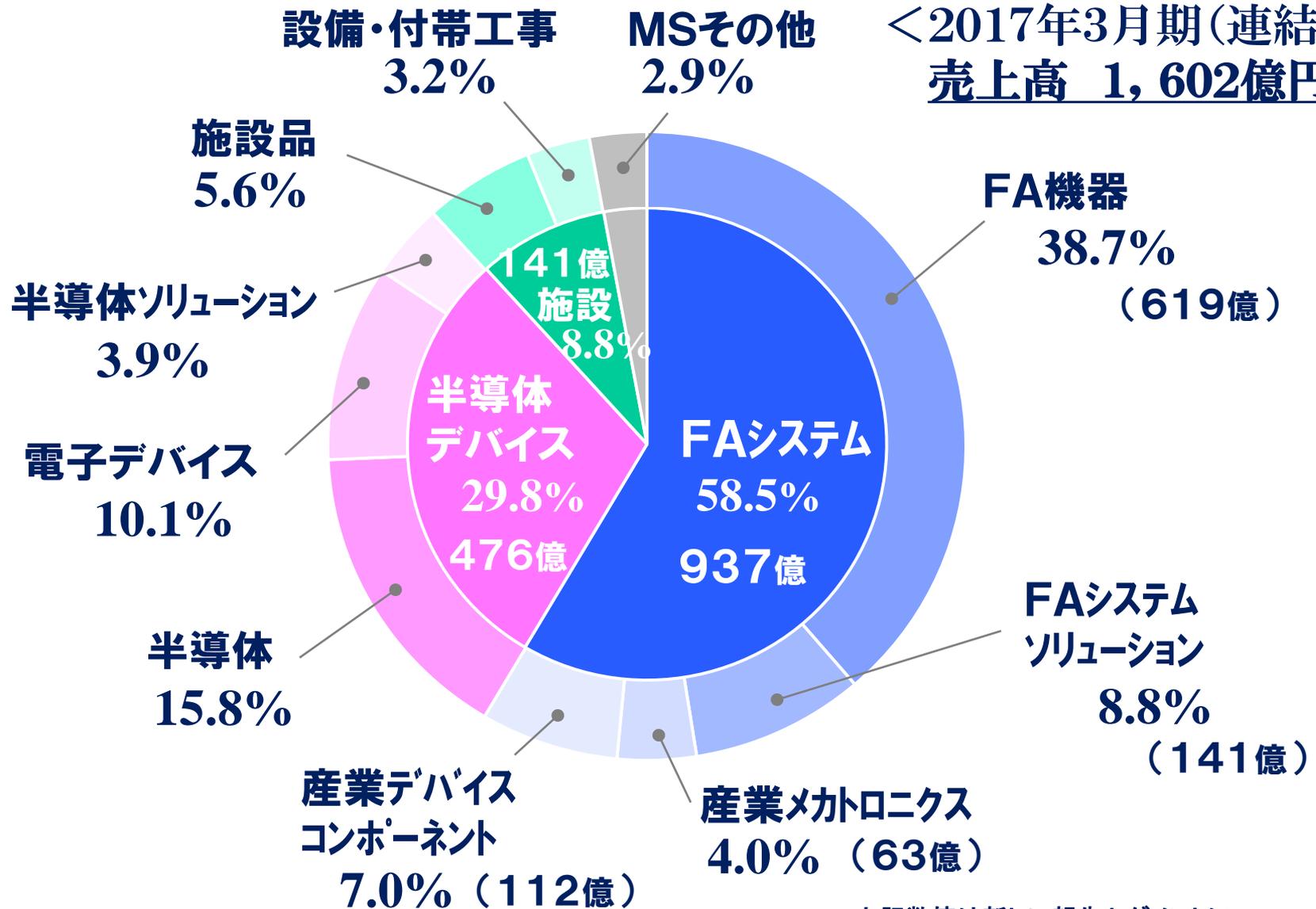
## MS事業

電子機器の基板から完成品までの設計・製造受託 (EMS) と立体駐車場や鉄道車両に使用される金属部材の加工・受託製造 (MMS)。



# セグメント別売上高構成

＜2017年3月期(連結)＞  
売上高 1,602億円



\*上記数値は新しい報告セグメントに  
組み替えて表示(2017年4月の機構改革後)

## 電機・電子の技術商社＝FA&半導体デバイスの技術商社

### 技術商社＝提案・開発力と調達力

顧客ニーズに対し、技術提案をもって応え  
優れた製品と高い技術・サービスを提供

### 豊富な技術者と高い技術力

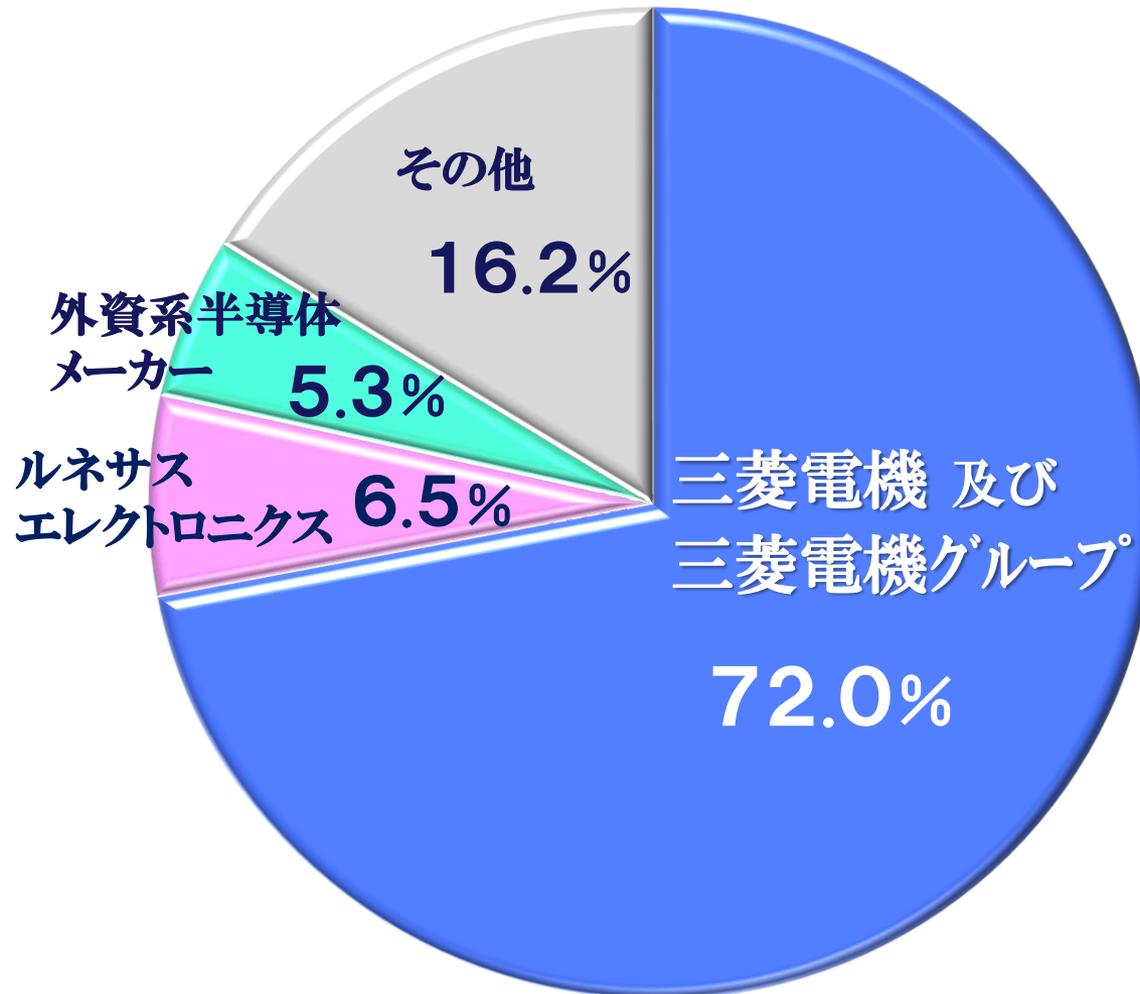
200余名の技術者が在籍、専門的な知識や最新技術・製品情報を持ち、製品開発のサポートやソリューションを提供

### 幅広い製品をラインアップ

FA機器、半導体・電子デバイスをはじめ製造ラインの生産設備、環境・省エネ機器、ビル設備品など幅広い製品を取り扱う

# 仕入先別構成比

<2017年3月期>

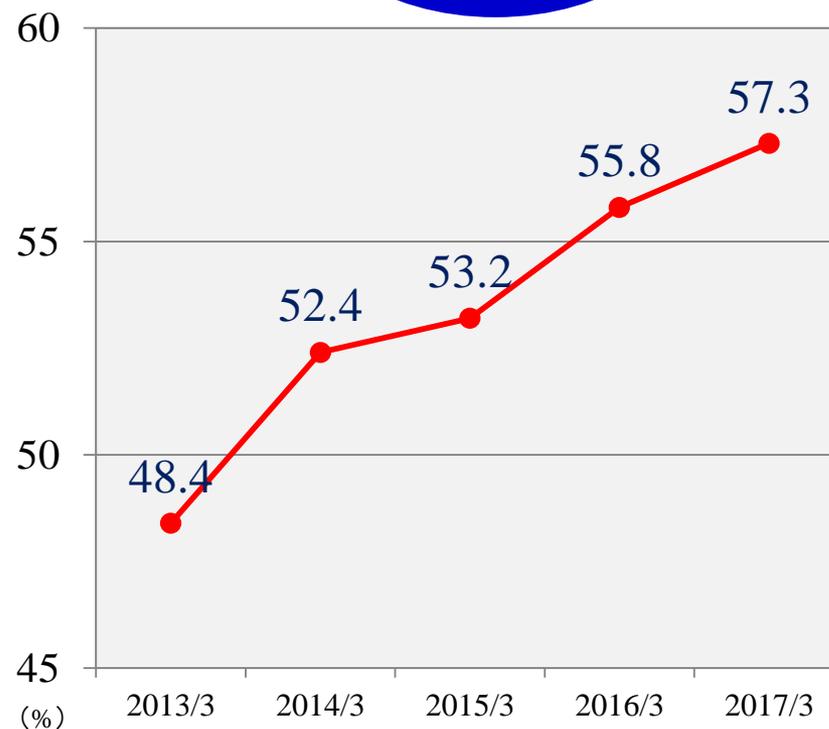


# 財務状況（連結BS）

連結BS（2017年3月期末）		
流動資産		79,207
現金及び預金	0.97ヶ月	13,065
商品	0.72ヶ月	9,664
受取手形及び売掛金他		56,478
固定資産		24,863
資産合計		104,070
支払手形及び買掛金他		41,439
借入金	0.12ヶ月	1,666
負債合計		43,105
株主資本		54,036
資本金		5,874
資本剰余金		6,088
利益剰余金		42,965
自己株式		△891
その他		6,927
純資産合計	自己資本比率 57.3%	60,964
負債純資産合計		104,070

実質無借金！

自己資本比率  
57.3%



# 2018年3月期第1四半期決算概要

## 【連結業績の概況】 増収増益～過去最高～

- ◆ 世界的な半導体業界の好調を受け、国内外共に半導体デバイス事業が大幅伸長。
- ◆ 上記に伴い半導体・液晶製造装置関連が牽引され、FAシステム事業も好調に推移。
- ◆ 施設事業も人材の先行投資の成果が出はじめ、産業冷熱品、LED照明及びスマート電化機器を中心に好調。
- ◆ 主要国内子会社（高木商会、大電社）は、製造ラインの「見える化」「合理化」に向けた投資案件が寄与し、電子部材を中心に好調。

## 【連結業績ハイライト】

(単位:億円)

主要科目	2017年3月期 1Q	2018年3月期 1Q	増加額	前年同期比(%)
売上高	343	377	33.3	109.7
営業利益	6	11	4.7	169.5
経常利益	6	13	6.4	194.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	4	9	4.8	206.7

全て過去最高

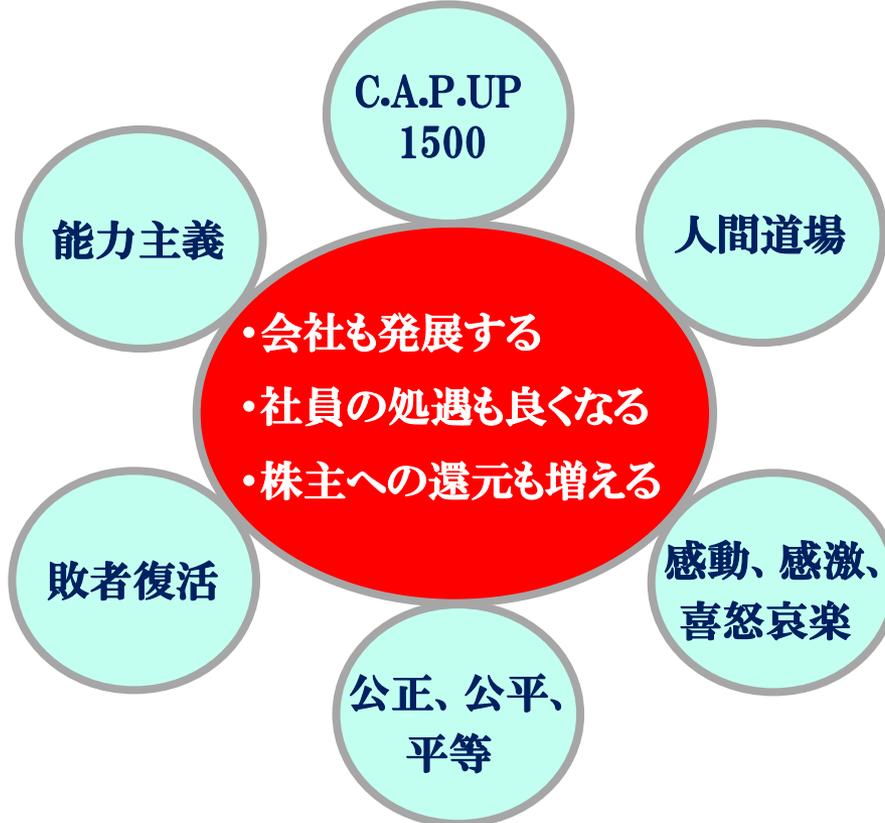
「社員を幸せにする」  
ことは、経営者として  
最も重要かつ価値ある  
経営目標

なぜなら、「社員が幸せを  
感じている会社は発展する」  
そして一人ひとりの成長が  
会社発展の原動力になる

「人は成長が感じられる  
間は無理難題にも挑戦し  
成長を続ける」  
だから会社は成長し続け  
なければならない



社員が「やりがいを持  
ち成長して力を発揮  
できる環境」をつくる  
ことが会社の使命



**「商社の価値」は「売る力」の高い会社**  
徹底した営業力強化と体質改善の推進で「売る力」を高める

**「C.A.P. UP1500」**

\*2008年スタート

「売る力」をつける

「営業力」と「マネジメント力」の強化

社員一人ひとりが実行力、実現力を高めること  
で組織として最大の力を発揮することを目指す

業務改善・効率化  
費用削減意識を高める

南大阪ビル  
(立志館)



## 「人間道場（立志館）」

目的：人間力の醸成

社員OBなど“人生の先達”として  
講師に招き、経験談などの  
講演や対話を実施

知識研修後、会社の費用で  
“飲みニケーション”

2008年から、延べ478回開催、8,714名参加

\*特別講演(佐野有美さん)  
⇒2014年 東京、大阪、名古屋で開催し、  
1,529名参加

\*書籍及び映画チケットの配布



## ■ 人材確保

直近2年間の採用者:115名 (キャリア:54名、新卒:61名)

## ■ 4年連続のベースアップ

## ■ 教育体制

資格取得及び語学習得支援

## ■ 技術力向上～先進知見の蓄積～

・システムソリューション、センサー、ロボット、  
IIoT(インダストリアルIoT)、AI、クラウド

・米国ラスベガス「CES」及びドイツ「ハノーバメッセ」の視察  
⇒2017年は各3名を派遣

## ■ 研究開発

半導体技術開発プロジェクトの推進

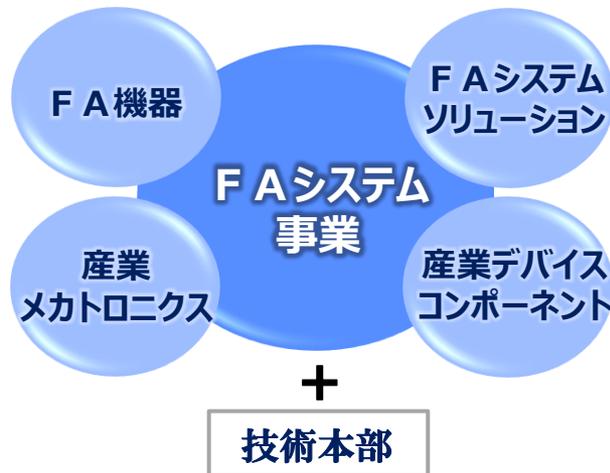
## 機構改革

### FAシステム事業の組織改革

#### AI・IoT時代の到来！

技術革新が進む中、  
次世代に対応できる技術商社を目指す

#### 【FAシステム事業は4部門体制】



\* 産業用ロボットはFAシステムソリューションが担当

#### ■改革内容

ソリューション事業(ソリューション本部+技術本部)と産業デバイスコンポーネント事業をFAシステム事業に組み入れる

#### ■改革の目的・狙い

- 一元的に管理・運営することで 組織機能をより効果的に高める
- IoT関連の品揃え充実
- 技術サービスの向上とシステム販売体制の整備
- システムソリューションの育成
- セットメーカーの攻略

## 立菱会 ～ F A 機器の再販を担う全国 52社の販売店組織～

### <協業強化、育成強化を図り、F A 機器等の拡販推進>

- 当社の小規模顧客の取引窓口を移管し、  
きめ細やかな対応による拡販強化
- IoT 時代に沿った技術力を養成  
⇒ 技術スクールの開催等
- F A 機器の拡販キャンペーンを今年10月スタート  
(2021年3月最終年度)

2021年の創立100周年を見据えた2015年を初年度とする  
6カ年の中長期経営計画『**C.C.J2200**』をスタート

「変わる」こと「挑戦する」ことで  
さらなる「飛躍」に向け、新たな歩みを始めます

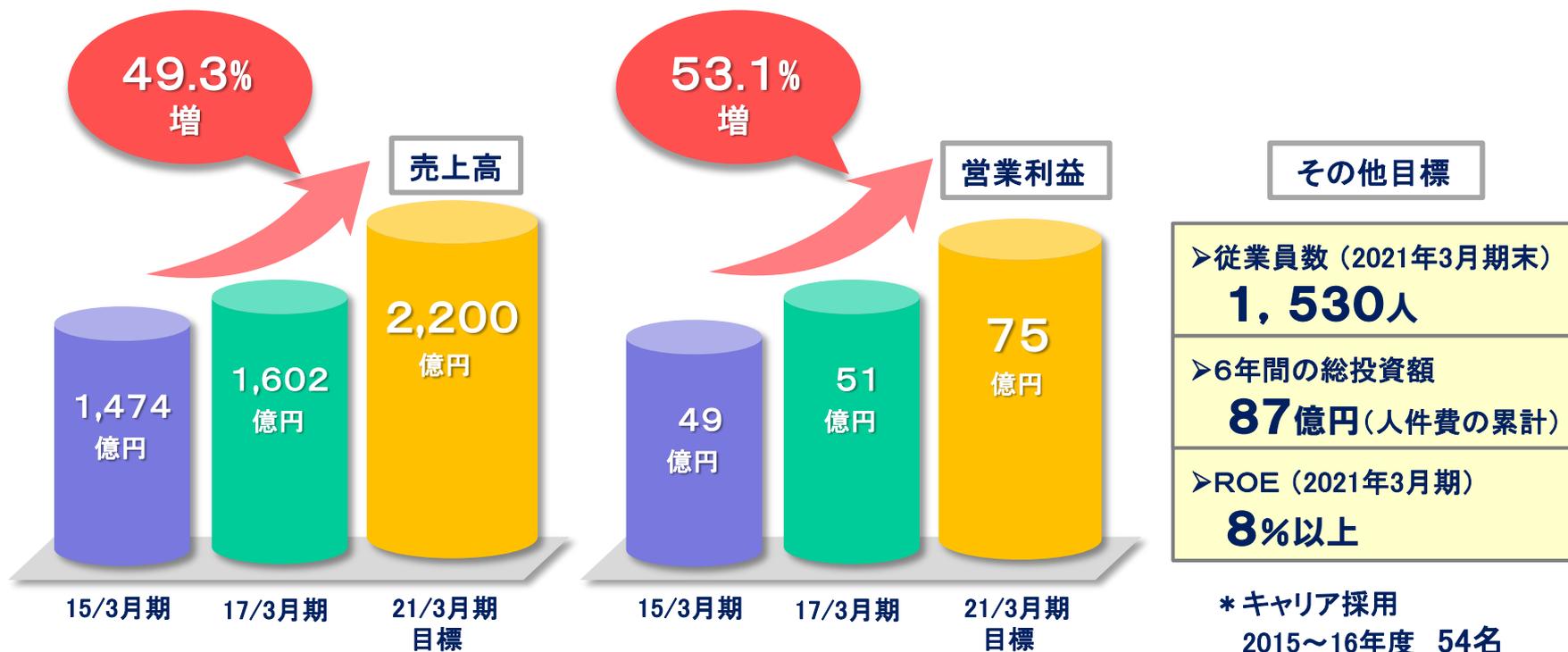
**C**hange <変革>

**C**hallenge <挑戦>

**J**ump-up <飛躍>

連結売上高 **2,200**億円

## 『確固たる基盤を持った 電機・電子の一大技術商社』を目指して



# 『C.C.J2200』基本戦略

2016⇒2017年3月期  
成長基盤の整備

2018年3月期  
計画を着実に実行

2019⇒2021年3月期  
成長を加速～持続的成長へ

…成果を追求…

## 基本戦略

- ① 地域のサービスレベルの均一化
- ② 半導体デバイス事業をグローバル事業として強化
- ③ 自社保有技術によるシステムソリューションビジネス強化
- ④ 施設事業を第三の柱として主要事業化
- ⑤ 子会社とのシナジー効果アップ
- ⑥ 海外ビジネス強化
- ⑦ CSR経営の推進

売上目標

**2,200**億円

売上  
**1,474**億円

2015年3月期

## 基本戦略

①

## 地域のサービスレベルの均一化

### ■ FAシステム事業における有望分野への注力

- **センサー**ビジネスへの注力 ⇒専任者を本社、東京、名古屋に配置
- **ロボット**ビジネスへの注力 ⇒各本部へロボットキーマンを配置し販売体制を整備  
⇒ロボットソリューション専門部署を配置

### ■ 東京・名古屋地区の市場開拓へ注力

～ 産業メカトロニクスや施設といったポテンシャルの高い分野に注力 ～

#### 【FAシステム事業】

- **産業メカ要員のシフト(本社 ⇒ 東京・名古屋)**

#### 【施設事業】

- **東京支社に照明専門部隊新設**……LED照明の拡販
- **名古屋支社の人材補強**……電気サブコン攻略とLED照明の拡販
- **産業冷熱分野に注力(全社)**……営業、施工、メンテが出来る体制構築  
⇒差別化による市場への参入

基本戦略  
②

## 半導体デバイス事業をグローバル事業として強化

### ■ グローバル体制の強化

- 日本、海外(日系、ローカル)の顧客対応の一元化

### ■ 現地技術サポート力の強化

- 深圳、上海、マレーシアの半導体技術センター技術者を増員し、国内と同レベルのサービス提供

### ■ 新規顧客への拡販強化

- ～ 戦略&キー商材の品揃え強化 ～
- 新たなソリューション提案ビジネスを推進  
半導体技術開発プロジェクトを強化し、モーター制御、非接触センサー、画像認識などの分野での需要開拓
- 外資系商材の開発・拡販

基本戦略  
③

## 自社保有技術によるシステムソリューションビジネス強化

## ■ 産業用ロボットシステムビジネス推進

ロボット本体の 代理店契約締結	+	ロボットショールーム 開設(3メーカー4機種を常設)	+	周辺装置の開拓、ソフトウェア 開発及びロボット技術者の充実
(三菱電機、川崎重工業、ABB社) 産業系小型精密ロボットから 中型ロボットまで販売		ロボット導入時の動作テスト やシステム検証ができる 環境を整備		ロボットソリューション部、 ロボット技術課発足(技術者5名)



産業系ロボットユーザーの多様なニーズに対応

## ■ IoT・ビッグデータ・AI時代の次世代製造システムに必要な技術の蓄積

- ▶ 工場内の稼働管理システム(M2M)からIIoT(インダストリアルIoT)へ  
バーコード、センサー、BLE(Bluetooth Low Energy)などのIoTツールを  
活用して製造現場の人や設備の「見える化」に取り組む

# ロボットショールーム(本社1F)



各種センサー(力覚、3Dビジョン)  
PLCを取り付けシステム構築した  
三菱多機能ロボット

## ABB 双腕ロボット

立花エレテック が提案する新しいモノづくり

システム仕様

規格型	IRB 14000-0.5/0.5
型式	1488
繰り返し精度	0.02mm
最大動作速度	1.500mm/s
最大ストローク	500mm
可搬重量	500g
コントローラ	ロボット本体に内蔵
電圧	AC100~240V
質量	38kg
保護等級	IP30

↑↑↑ 関連映像はこちら ↑↑↑

実機はこちら

ロボット営業プロジェクト

↑  
ABB社:パラレル  
リンクロボット

川重:双腕ロボット  
「duAro」

ABB社:14軸多関節  
双腕ロボット「YuMi」

# 2018年3月期 業績予想

## 【業績予想(連結)】

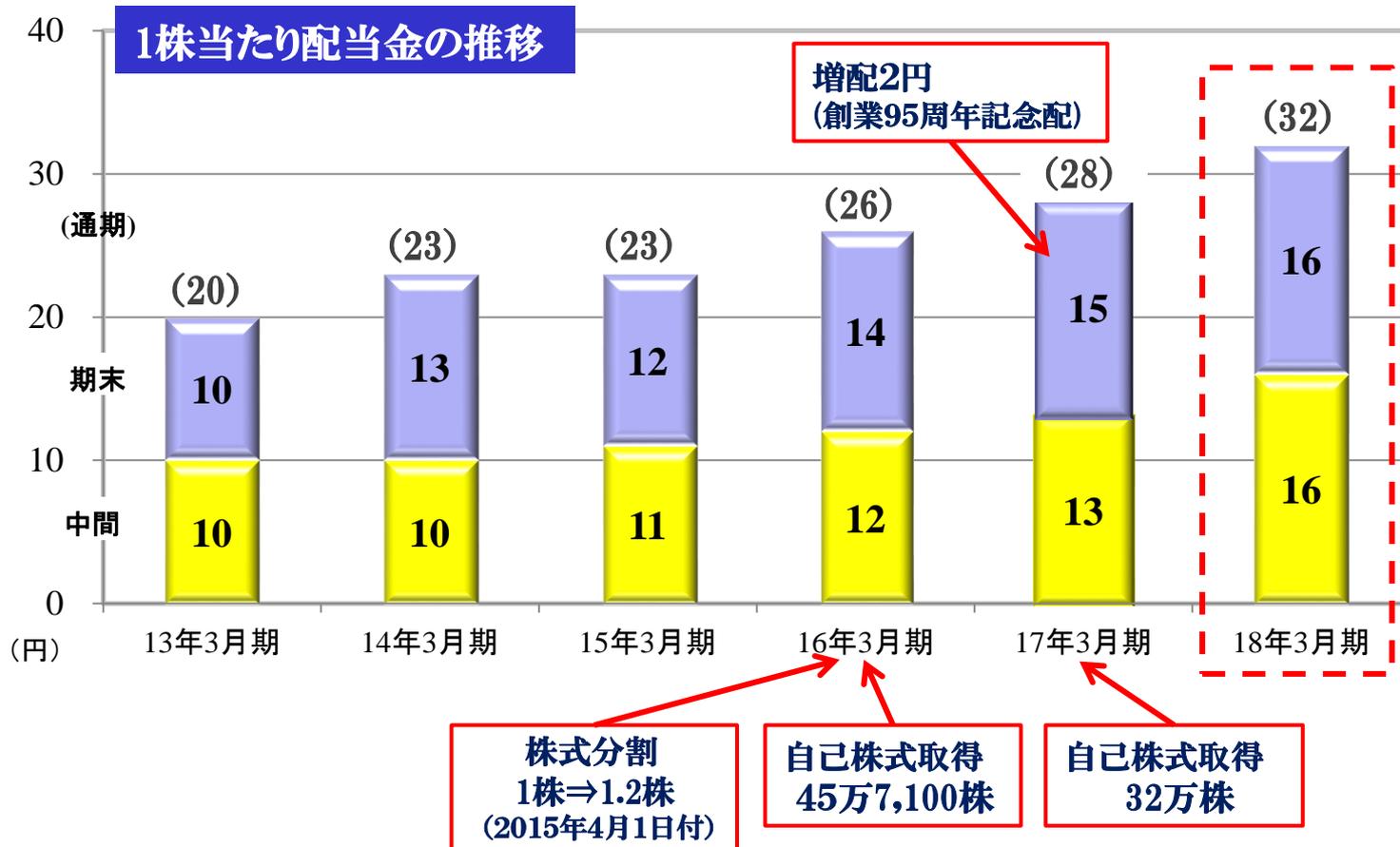
(単位:億円)

主要科目	2017年3月期	2018年3月期予想	前期比(%)
売上高	1,602	1,650	103.0
営業利益	51	52	100.5
経常利益	53	54	101.1
当期純利益	38	37	95.0

1株当たり当期純利益	153.53(円)	146.60(円)	-
------------	-----------	-----------	---

## ■ 次期(2018年3月期)の配当予想 [増配]

年間配当は、前期比 **4円** 増配の **32円** (中間16円/期末16円)



## ■ 株主優待制度の導入

### ■ 導入の目的

当社株式への投資の魅力を高め、より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有していただくため

### ■ 優待制度の内容

保有株式数及び継続保有期間に応じてクオカードを年1回贈呈  
長期保有者は、さらに優遇(増額)

(3年以上継続保有=2021年3月末まで継続者より適用)

保有株式数	継続保有期間	
	3年未満	3年以上
100株以上1,000株未満	2,000円分	3,000円分
1,000株以上	3,000円分	5,000円分

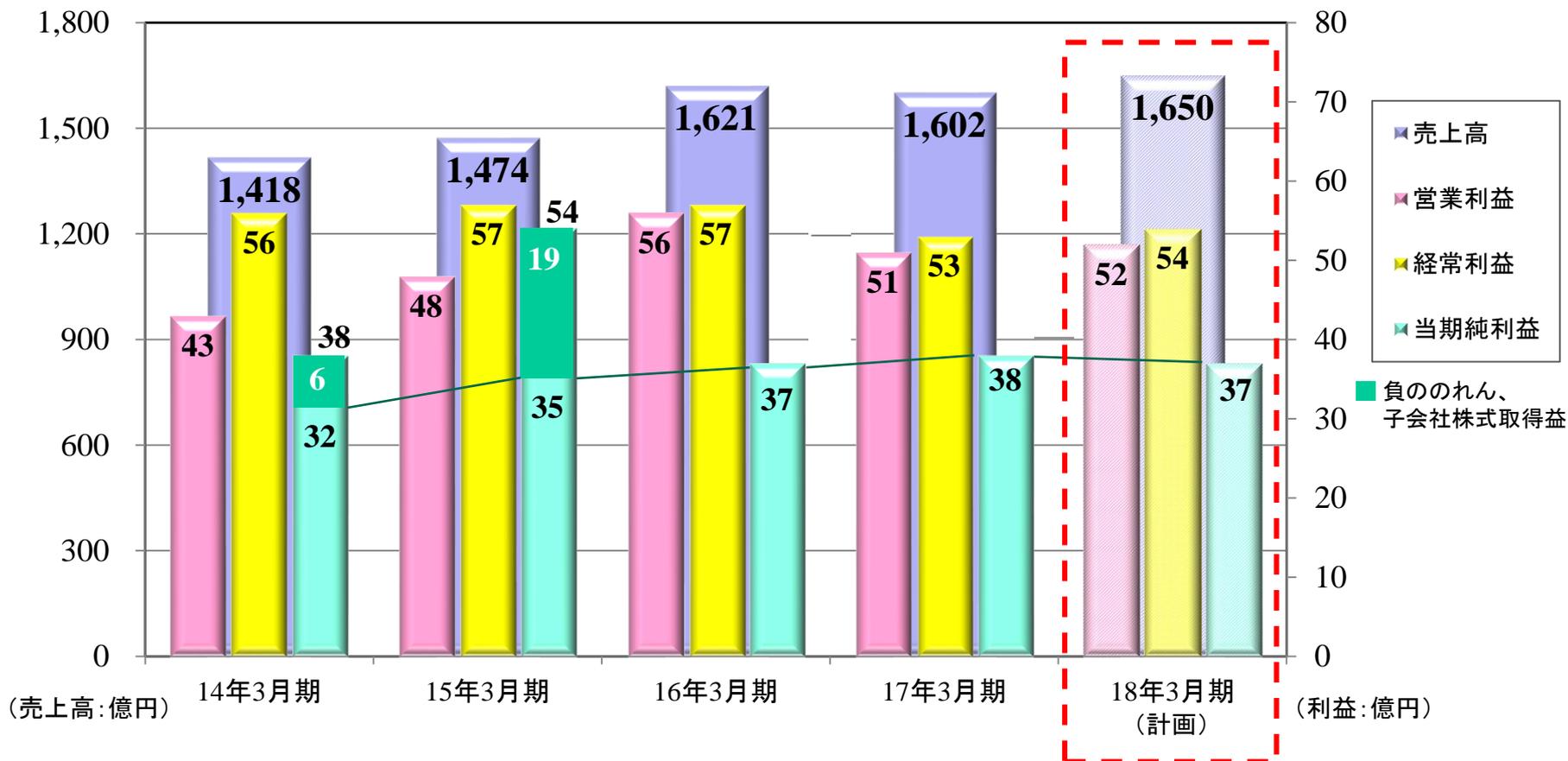
### ■ 初回は2018年3月末時点の株主様が対象

(株価：円)

(PBR：倍)



## 売上高/営業利益/経常利益/当期純利益 (億円)



**ご清聴いただき、誠にありがとうございました。  
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。**

**お問い合わせ先**

**(株)立花エレテック 経營業務部 広報・株式業務課**

**Tel: (06) 6539-2718 Fax: (06) 6539-8821**

**<http://www.tachibana.co.jp/>**

本資料中の業績予想ならびに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。

そのため、事業環境の変化等の様々な要因により、実際の業績は言及または記述されている将来見通しとは異なる結果となることをご承知おきください。